

令和6年度第22回

斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール選考結果について（お知らせ）

令和6年度第22回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクールには、山形県内はもとより県外・海外からも多数応募があり、小学校41校（団体）・1749首、中学校46校（団体）・3349首、高等学校47校（団体）・3309首、合計134校（団体）・8407首の作品が寄せられました。その全応募作品を対象に、第1次選考（入選200首）、第2次選考（優秀賞50首）、さらにこのたび（2月15日）、選考委員の大瀧保・田村元・結城千賀子の3氏による最終選考会が開かれ、小・中・高校の各部門2首・計6首の最優秀賞が左記のとおり決定いたしました。

なお、最優秀賞作品・優秀賞作品を含む全入選作品を収めた「令和6年度第22回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品集」は、本年3月15日付で発行し、応募学校（団体）等に配布いたします。

主催 山形県・上山市・上山市教育委員会・公益財団法人斎藤茂吉記念館

お問合せ先 公益財団法人斎藤茂吉記念館

〒999-3101 山形県上山市北町字弁天1421

TEL 023-672-7227 Fax 023-672-2626

令和6年度第22回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール最優秀賞作品（全六首）

【小学校の部】

すいそうにクラゲゆらゆらたのしそうやすみじかんのぼくたちみたい

真室川町立真室川小学校

三年 佐藤大 柰

オレンジの夕日みたいなかき食べた体の中にとけおちていく

上山市立上山小学校

三年 西 湊 翔

【中学校の部】

「頑張つて」去年は押されたこの背中 今年は私が押すその背中

山形県立東桜学館中学校

一年 栗田美 緒

無意識にあなたのことをみてしまう太陽をみるひまわりのように

名古屋市立八王子中学校

二年 近藤ひより

【高等学校の部】

月冴ゆる輪島の店の破れガラスマネキンだけが中で春待つ

徳島県立脇町高等学校

一年 坂本 梓

初実習私に微笑む患者さん戻ってこよう看護師になって

山形県立山辺高等学校

一年 菅原朋 絵

令和6年度第22回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール優秀作品（全五十首）

■小学校の部（八首）

かなへびをくさのところでつかまえたあかちゃんうまれてかわいかつたよ
オレンジの夕日みたいなかき食べた体の中にとけおちていく
たけのこのねっこうにやうにやおもしろい今にも歩き出しちゃいそうだ
弟がハンサムボーイと外国の人に言われてくによくにやしてる
秋くると日がくれるのが早いですきつとお日さまもクタクタなんだな
やわらかいとこの赤ちゃんだっこしたふんわりママのにおいがしたよ
すいそうにクラゲゆらゆらたのしそうやすみじかんのぼくたちみたい
楽しみは新品の本買ってきて紙のにおいと読書するとき

上市市立上山小学校

一年 吉田 琉愛翔 よしだ りあと

三年 西 湊翔 にし みなと

上市市立南小学校

三年 後藤 真緒 ごとう まお

三年 里見 謙心 さとみ けんしん

五年 鈴木 琴 すずき こと

上市市立宮川小学校

二年 井上 優翔 いのうえ ゆうと

真室川町立真室川小学校

三年 佐藤 大椰 さとう だいな

江東区立数矢小学校

六年 黒澤 真菜 くろさわ まな

■中学校の部（二十三首）

最終回勝負が決まるこの打席今日の主役は自分のようだ
先輩の熱い思いも受け取って私が受け継ぐフルートのバトン
二ゲーム取られていてもまだいける靴ひも縛りラケットにぎる
黄金の楽器輝く窓ぎわに遠くに聞こえる白鳥の声
友達の去りゆく姿見送って待ってと言える勇気が欲しい
曲聞いてすぐ泣く母と笑う父こんな時間が私の宝
高跳びのバーまで少しとどかない百四十五の空に羽ばたく
「頑張つて」去年は押されたこの背中今年は私が押すその背中

山形市立第六中学校

二年 東 晴空 あずま はるか

上市市立南中学校

二年 後藤 陽葵 ごとう ひまり

上市市立北中学校

一年 宇津木 萌彩 うつぎ めい

一年 木村 美月 きむら みづき

二年 高橋 希 たかはし のぞみ

新庄市立日新中学校

三年 山田 千代 やまだ ちよ

鶴岡市立鶴岡第四中学校

二年 安達 榛華 あだち はるか

山形県立東桜学館中学校

一年 栗田 美緒 くりた みお

苦小牧市立和光中学校

二年 及川 未紗 おいかわ みさ

二年 小野 綾音 おの あやね

二年 菊地 楓 きくち かえで

岩手県立一関第一高等学校附属中学校

一年 齊藤 清代 さいとう さよ

葛飾区立亀有中学校

三年 田中 彩世 たなか あやせ

町田市立金井中学校

二年 高橋 知葵 たかはし ともき

学習院女子中等科

一年 小谷 くるみ こたに くるみ

三年 高橋 芽生 たかはし めい

玉川学園中学部

二年 高野 はるか たかの はるか

手袋を忘れた君に貸したくて勇気を出した初雪の午後
母の顔見上げ歩いた帰り道今はすぐ横に変わらぬ笑顔

桜月別れた君と「久しぶり」変わらぬ笑顔変わった制服

無意識にあなたのことをみてしまう太陽をみるひまわりのように

冬の風頬を刺すように吹くけれど誰かの背中押しているのかな
久々に父とジョギング年の夜顔は見えぬが嬉しいようだ
祖母の手と私の両手重ねると映し出される時間の流れ

冬の朝どこまでも広い青空に励まされたのは何回目だろう
蹴り上げたボール見上げて飛行機雲異国の父を想う夕暮れ

■高等学校の部（十九首）

ボール蹴り仲間を信じ即走るシュートチャンスを狙える位置へ

初実習私に微笑む患者さん戻ってこよう看護師になって
冷たくて骨ばった手にそっと触れ不安もいっしょに包んであげたい

大小のくつのちらばる玄関に母も小言を言わぬ元旦

教室で君の近くを通るたび気づいてほしい切った前髪

マネージャー18合の米を握る甲子園の夢いっしょに見てる
かじかんだ指の感触もどるのはフリースローを十本する頃
厳冬の雪国静かな吐息さえ小さな明かりにたとえたくなる
いつの間につぶれたお握り整形し涙と食べるバスケットの午後
ごめんねと言えずに終わった一年間僕は案外弱いみたいだ
自販機がオレンジ色に変わったら雪降る季節がもうそこにある

冬空にひときわ目立つオリオン座ひとりぼっちの私を照らす

パソコンを開けばそこに君がいて何も知らずに微笑んでいる

補助輪がはずれて気付く身軽さと離れていったあの手の温もり

食卓を家族と囲む時に知る遠いあの地の終わらぬ戦い
ペンダコもまとめて愛しくなってくる冬の街路樹握る君の手

鉛筆の音に紛れて聞こえてくる未来の扉開く鍵音

月冴ゆる輪島の店の破れガラスマネキンだけが中で春待つ

雪の中真っ赤なマフラー目にしみて思わず君の横顔を撮る

名古屋市立八王子中学校

二年 近藤 ひより こんどう ひより

大阪教育大学附属天王寺中学校

二年 芝崎 陽寧 しばさき はるね

二年 森田 有飛 もりた ゆうと

三年 吉田 未央 よしだ みお

大阪国際中学校

三年 池上 莉生 いけがみ りお

山口県立高森みどり中学校

二年 竹林 海翔 たけばやし かいと

山形県立上山明新館高等学校

一年 関野 友春 せきの ともはる

山形県立山辺高等学校

一年 菅原 朋絵 すがはら ともえ

三年 樋渡 寧々 ひわたし ねね

山形県立東桜学館高等学校

二年 半田 優花 はんだ ゆうか

山形県立酒田光陵高等学校

一年 渋谷 柚姫 しぶや ゆずき

東京学館新潟高等学校

一年 阿部 咲央 あべ さお

一年 池田 梓音 いけだ しおん

一年 倉島 琥太 くらしま こうた

一年 樋浦 あい子 ひうら あいこ

二年 児玉 寛斗 こだま ひろと

二年 酒井 悠晃 さかい ゆうこう

常総学院高等学校

二年 高埜 陽暉 たかの はるき

星野高等学校

二年 長谷部 澄香 はせべ すみか

千葉英和高等学校

一年 村野 しずく むらの しずく

学習院女子高等科

二年 沼上 喜久 ぬまかみ きく

二年 町田 珠理 まちだ じゅり

大谷高等学校

三年 山本 莉空 やまもと りく

徳島県立脇町高等学校

一年 坂本 梓 さかもと あずさ

徳島県立池田高等学校（定時制課程）

三年 西川 未紗 にしかわ みさ

令和6年度第22回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品（全二〇〇首）

■小学校の部（四十二首）

あやなちゃんダンスおどるのかっこいいめをかくすがシャキンとしてた かなへびをくさのところでつかまえたあかちゃんうまれてかわいかつたよ	一年	大澤 玲愛	おおさわ れあ
九九くろう九のだんくろう何日もれんしゅうをしてごうかくしたよ	二年	山口 春	やまぐち はる
きくの花山形めいさん食べる花どんな味だろおいしいのかな	三年	飯澤 侑己	いいざわ ゆうき
オレンジの夕日みたいなかき食べた体の中にとけおちていく	三年	西 湊翔	にし みなと
冬の朝げんかんそうじしていたら風がふいてくる手と耳真っ赤	四年	小関 伊織	こせき いおり
山たちが紅葉色でそまるときゆうやけ色の赤一色だ	四年	高橋 來紅	たかはし くれな
トカゲの子一匹ふえたかわいくてついつい見てるエサ食べるかな	五年	稲毛 奏斗	いなげ かなと
こたつ出すそして現るこたつむりその正体はぼくの弟	六年	柴田 健佑	しばた けんすけ
運動会結果はどうか勝てるかなとく点板の一の位見る	上山市立中川小学校	高橋 魁翔	たかはし かいと
白鳥が冬になってとんできた白いきれいなつばさなんだよ	二年	和田 佳歩	わだ かほ
妹の漢字勉強始まったぼく教えたら百点とった	三年	遠藤 煉	えんどう れん
夏休みビッグサイズのすいかだよバリバリリンとママが切ったよ	三年	落合 春馬	おちあい はるま
畑にね雪がふったよ真っ白く春のやさいがゆつくりねてる	三年	後藤 壮佑	ごとう そうすけ
たけのこのねっこうにやうにやおもしろい今にも歩き出しちやいそうだ	三年	後藤 真緒	ごとう まお
虫めがねでだんボールにあな空けたいな光の円を小さく集める	三年	酒井 水杜	さかい みと
弟がハンサムボーイと外国の人に言われてくによくやしてる	三年	里見 謙心	さとみ けんしん
ししまいの大きな口にすいこまれせいせきアップけんこういのる	四年	江口 奏	えぐち かなで
ほしい物なぜわかったのサンタさん手紙のふうはそのままなのに	四年	谷澤 歌映	やざわ かえ
お母さんマンガ買いき場所がない本とたな達いつも戦争	五年	菅野 生華	すがの みはる
秋くると日がくれるのが早いですきつとお日さまもクタクタなんだな	五年	鈴木 琴	すずき こと
白黒の写真にうつるおじいちゃんまるでそっくりお兄ちゃんみたい	五年	武藏 航大	むさし こうだい
お母さんにいつもの気持ち伝えたい心の底からおやすみなさい	五年	吉川 結	よしかわ ゆい
誕生日願い事をし火を消したこの瞬間から十二歳だ	六年	薄井 莉々愛	うすい りりあ
朝起きてツリーの下に何も無いどうやらサンタインフルエンザ	六年	枝松 湊	えだまつ みなと
やわらかいとこの赤ちゃんだっこしたふんわりママのにおいがしたよ	上山市立宮川小学校	井上 優翔	いのうえ ゆうと
じいちゃんがなたを使つて竹をわるはやくたべたいながしそうめん	二年	井上 優翔	いのうえ ゆうと
すいそうにクラゲゆらゆらたのしそうやすみじかんのぼくたちみたい	三年	佐藤 大椰	さとう だいな
霜柱ふみしめ歩く冬の道ころばぬように母の手にぎる	三年	山田 悠聖	やまだ ゆうせい
雪の日に親せき集まり盛り上がるてかげんなしの雪合戦だ	高島町立高島小学校	黒澤 美桜	くろさわ みお
大空の打ち上げ花火満開にいっしょに咲くのは家族の笑顔	六年	小西 七青	こにし ななせ
さんぼ道キラキラひかる朝つゆでクンクン犬の洗顔タイム	六年	村井 柊哉	むらい しゅうや
クリスマス年を取ることわくわくが減つてしまうのなぜなのだろう	鶴岡市立藤島小学校	齋藤 琉菜	さいとう るな
モルモット買ったとうじはにげまわりだけどいまではなかよくなった	小美玉市立小川南小学校	菅具 慶太朗	かんぐ けいたろう
持久走がんばった後ごほうびのこうかいのない夜の焼肉	四年	藤枝 航希	ふじえだ こうき
楽しみは新品の本買ってきて紙のにおいと読書するとき	江東区立数矢小学校	黒澤 真菜	くろさわ まな

出たいけど布団に喰われ抜け出せず動物みたいに冬眠中

もみじ葉もいろどりはじめる山々に秋を告げにくる七草の花

寒い朝山のでっぺん白くなるわたしの手にも白い手ぶくろ

かなしみはなみだとなつてからだからでていくんだよ一つのこらず

カツカレーおばあちゃんの手作りだみんなで食べるうれしい夜だ

オーラリー楽器を手に持ち鳴らしたら音まちがえて頭まっ白

■中学校の部（八十首）

最終回勝負が決まるこの打席今日の主役は自分のようだ

魂のすべてを燃焼コンクールこの夏の思い込めて奏でろ

課題あり悔いが残った九重奏次披露する機会ないのに

マリソピア一人でぼつりあの日見た海月の儂さやつぱり好きだな

先輩の熱い思いも受け取って私が受け継ぐフルートのバトン

竿折れて友達怒って沼落ちるポンドで直し一件落着

目を見張るペールオレンジ朝の雲不思議に思うまるで夕焼け

自衛隊で偽装体験メイクをし草木に隠れて日本を守る

祖父達と一緒に行った墓参り夕日が照らす線香の煙

マレットを手ににぎりしめ四分間仲間と目合わせ曲も後半

二ゲーム取られていてもまだいける靴ひも縛りラケットにぎる

球を投げ回転かけて打ち出すと真横に飛んでサーブ失敗

黄金の楽器輝く窓ぎわに遠くに聞こえる白鳥の声

いつもより頑張った日の夜の空いつもよりずっときれいに見えた

三人で息を合わせるアンサンブル自分の本気楽器にぶつける

晴れた空ちよつとだけでたひまわりの芽こんにちはとつげてるみたい

バスシュはき走りまくって汗をかく外の街灯明日への光

友達の去りゆく姿見送って待ってと言える勇気が欲しい

靴をはき玄関出ると青い空走り始める頬をゆるめて

「おつかれさま」私となり好きな人会話がはずむスケートパーク

ポクポクポク木魚じゃないよ坊主だよみんなに言われるきれいな頭

曲聞いてすぐ泣く母と笑う父こんな時間が私の宝

眠い朝犬とお散歩ジャンパー着て真っ白い道足跡ふたつ

高跳びのバーまで少しとどかない百四十五の空に羽ばたく

初めての駅伝大会震えてる足をあたたためる先輩の言葉

低身長弱みを強みにするためにドリブルみがきシュート決める

「頑張つて」去年は押されたこの背中今年は私が押すその背中

試合前勝ちたい気持ちつものる不安全部あわせて「お願いします」

江東区立数矢小学校

六年 小俣 涼之助

こまた すずのすけ

鎌倉市立七里ガ浜小学校

四年 川島 綾

かわしま あや

南砺市立南砺つばき学舎

五年 前川 紗都

まえかわ さと

金沢市立小立野小学校

一年 植田 泰就

うえだ やすなり

郡上市立大和小学校

三年 此島 葵斗

このしま あおと

四年 尾関 莉子

おぜき りこ

山形市立第六中学校

二年 東 晴空

あずま はるく

二年 五十嵐 彩奏

いがらし あやな

上市市立南中学校

一年 井上 千紗

いのうえ ちさ

一年 落合 明穂

おちあい あきほ

二年 後藤 陽葵

ごとう ひまり

二年 峯田 滝大

みねた たきひろ

二年 百原 真穂

ももはら まほ

二年 森谷 蓮斗

もりや れんと

二年 吉田 大知

よしだ たいち

上市市立北中学校

一年 伊藤 花

いとう はな

一年 宇津木 萌彩

うつぎ めい

一年 江口 悠大

えぐち ゆうだい

一年 木村 美月

きむら みづき

一年 紅葉 百香

こうよう ももか

一年 佐々木 陽菜

ささき ひな

一年 山口 莉穂

やまぐち りほ

二年 安孫子 咲愛

あびこ さくら

二年 高橋 希

たかはし のぞみ

二年 中野 翔

なかの かける

二年 増川 禾萌乃

ますかわ ひめの

二年 村山 登夢

むらやま とむ

新庄市立日新中学校

三年 山田 千代

やまだ ちよ

真室川町立真室川中学校

二年 丹 なのは

たん なのは

鶴岡市立鶴岡第四中学校

二年 安達 榛華

あだち はるか

二年 柿崎 友希

かきざき ともき

二年 菅原 和夢

すがわら なごむ

山形県立東桜学館中学校

一年 栗田 美緒

くりた みお

苫小牧市立和光中学校

二年 及川 未紗

おいかわ みさ

緊張の音の始まるその間ぎわ息を吸いこむ指揮者に合わせ
帰り道部活の疲れふきとばす夕暮れの空むらさきの雲
なつかしき球場おとずれ思い出す試合に勝てず流した涙

アンカーがチームの思い引き受けた飛び込み台にしぶき残して

春の夜に街灯ともり照らす影変わる季節と新たな自分

金閣寺池にゆらめく幻影が我の心を金に染めてく

別れの涙をこらえ指揮をふる気持ちを込めて送り出したい
二条城足を忍ばせ耳を立て誰かに「くせ者」呼ばれた気する

試合前投手で試合に出ることにいつも以上にボールが伸びる

部活中やつと気付いた人間は楽したいから全てインコース

困難な人間関係思春期の死にたい衝動生きたい未来

いじめられとぼとぼ歩く帰り道不意に鼻突くおふくろの味

雪の中ガラスの向こう隅っこで体寄せ合うライオン家族

兄からの風邪がうつってかくりされおせちも全て独りぼっちだ

手袋を忘れた君に貸したくて勇気を出した初雪の午後

鏡越し母との身長離れゆく反抗させる気持ちの芽生え

母の顔見上げ歩いた帰り道今はすぐ横に変わらぬ笑顔

祖父母から毎年届く赤き実の想い詰まった箱開ける朝

奈良県の絶景スポット津風呂湖は心に残る夏の思い出

夏の朝傘を広げて歩く道雨の匂いに包まれながら

ゆきだるまふわふわゆきによるこんでゆきがっせんのしんぱんいんだ

行き日傘帰りはどしやぶり傘をさす通学お守り晴雨兼用

桜月別れた君と「久しぶり」変わらぬ笑顔変わった制服

リハ室で気持ち重ねるBの音ラフマニノフと夢の舞台へ

寒い日々冬の水面みなもにうつるのは夜空で光る冬銀河たち

あと少しあともう少し試合が終わるあと1点で順位が決まる

ロスタイムはなったシュートが決勝点仲間の下もとへ夢中でかけ寄る

無意識にあなたのことをみてしまう太陽をみるひまわりのように

なんでかな目に入ってるその本は生きてるようにこつちを見てる

猛暑の日気温二十度親潮に逆らい来たぞ苦小牧港

この世界生まれた命を大切にすくすく育つ未来の僕へ

真四角で真っ青クールな君だけどガラガラ愉快に笑うんだね

シーンシーンバン ドンギヤートントントン 学校なんてこんなものかな

あの子のね話をすると君笑う私の恋は多分とどかない

寢床にて拘束される恐怖心ドンドンドンとセマリクルモノ

目の前の鍵盤叩き音を出す夢と希望を音で色塗る

じんわりととけ出すつまさきふくらはぎ染み出す疲れほつと一息

冬の風頬を刺すように吹くけれど誰かの背中押しているのかな

苦小牧市立和光中学校

二年 小野 綾音 おの あやね
二年 菊地 楓 きくち かえで
二年 児島 悠煌 こじま はるき

岩手県立一関第一高等学校附属中学校

一年 齊藤 清代 さいとう さよ

葛飾区立亀有中学校

三年 飯塚 和 いいづか なごみ
三年 大山 樹生 おおやま いつき
三年 近藤 莉子 こんどう りこ
三年 田中 彩世 たなか あやせ

品川区立伊藤学園

一年(七) 大谷 智之祐 おおたに とものすけ
一年(七) 小野 諒汰 おの りょうた

二年(八) 匿名

町田市立金井中学校

二年 高橋 知葵 たかはし ともき

学習院女子中等科

一年 海老名 祐季 えびな ゆうき
一年 岸 真唯子 きし まいこ
一年 小谷 くるみ こたに くるみ
三年 大庭 理論 おおば りろん
三年 高橋 芽生 たかはし めい
三年 ネポールシグ真椰 ねぼーるしんぐ まや

玉川学園中学部

一年 北中 ルミナ きたなか るみな
一年 椰野 友衣名 なぎの ゆいな
一年 三橋 祐乃介 みつはし ゆうのすけ
二年 石川 仁以奈 いしかわ にいな
二年 高野 はるか たかの はるか
二年 中西 美空 なかにし みく

川辺町立川辺中学校

二年 川崎 優心 かわさき ゆう

名古屋市立八王子中学校

二年 青木 咲空 あおき さくら
二年 金森 祐太 かなもり ゆうた
二年 近藤 ひより こんどう ひより
二年 杉原 賢治 すぎはら けんじ
二年 野村 衣菜 のむら えま

名古屋市立新郊中学校

二年 旭 翔太郎 あさひ しょうたろう
二年 谷口 橙子 たにぐち とうこ
二年 服部 空汰 はつとり そらた
二年 服部 未奈 はつとり みな

大津市立青山中学校

二年 宇野 颯馬 うの そうま
二年 八木 廉太郎 やぎ れんたろう

大阪教育大学附属天王寺中学校

二年 坂本 知優 さかもと ちひろ
二年 芝崎 陽寧 しばさき はるね

窓の外遠くはるばる越してきたお隣さんは雀の家族
響きわたる縁の下の力持ちユーフォニアムの優しい音色
久々に父とジョギング年の夜顔は見えぬが嬉しいようだ
君の中想いがのったパレットで私一色に塗りつぶしたい
あの冬の乾いた風と走る夜町の光と君を追う僕
助手席の曇りガラスに描く未来終わりの見えないトンネルの中で
祖母の手と私の両手重ねると映し出される時間の流れ

オーディション受かって落ちてを繰り返しついに掴んだ私の舞台
永遠と追いかけていた目標は気づけばどこへ消えていたのか
冬の朝どこまでも広い青空に励まされたのは何回目だろう
受験生うたた寝起きればすぐ横に母の握ったおにぎり一つ
蹴り上げたボール見上げて飛行機雲異国の父を想う夕暮れ
数え寝るまぶたの奥のひつじ雲数え切れずに眠れない夜
「じゃあまたね」自転車漕ぎ出す田んぼ道微かに聞こゆる稲のざわめき

■高等学校の部（七十八首）

貴方への想いをしつかり言えてれば貴方の隣にいられたのですか
寒いねと会話しながら手を合わせ雪と一緒に笑顔も積もる
ボール蹴り仲間を信じ即走るシュートチャンスを狙える位置へ

真っ白な実習着を身にまとい夢への一步踏み出す私
病室の患者さんから「がんばって！」その一言で溢れる涙
実習で緊張と不安この胸を自信にかえた「ありがとう」
初実習私に微笑む患者さん戻ってこよう看護師になって
アンブルで初めて切った中指は看護師への道大きな一歩
冷えてきたあたかくしてねと慣れぬライン送る祖母に心ぼかばか
いつもよりつめたい風に冬感じプレイリストを変えてみる朝
患者さんと会話しながら散歩するその光景は祖母と孫

患者さん実習最後に「ありがとう」「楽しかったよ」の言葉が刺さる
薄い皮膚おそろおそろと清拭を感謝を込めて丁寧に拭く
「よし、来た！」袖を捲くる患者さん血圧測定の恒例行事
冷たくて骨ばった手にそっと触れ不安もいっしょに包んであげたい
手で触れて患部観察変化なし触れば治る魔法があればな
新雪に残る足跡真っ直ぐに我のあとにも我の道あり
三十五度汗が吹きでるこんな日も先生のギャグ最強寒波
大小のくつのちらばる玄関に母も小言を言わぬ元旦

実習中木枯らしの風肌を刺す大根洗いを終えれば卒業
覗き込む薄氷の中揺れる影今日も明日も探す我が道
教室で君の近くを通るたび気づいてほしい切った前髪
一瞬のファール逃さず笛を吹く一つの動き裁く手のひら

楽しみは一人ぼっちの帰り道声を張り上げ熱唱する時

大阪教育大学附属天王寺中学校

二年 鈴木 來太 すずき らいた
二年 松本 のどか まつもと のどか
二年 森田 有飛 もりた ゆうと
三年 片山 知香 かたやま ともか
三年 米田 将太郎 こめだ しょうたろう
三年 藤森 匠斗 ふじもり たくと
三年 吉田 未央 よしだ みお

大阪国際中学校

二年 石原 莉歩 いしはら りほ
二年 多田 実紗妃 ただ みさき
三年 池上 莉生 いけがみ りお
三年 大道 芽 おおみち めい

山口県立高森みどり中学校

二年 竹林 海翔 たけばやし かいと
二年 増山 宗哉 ますやま そうや
三年 尼野 莉子 あまの りこ

山形県立上山明新館高等学校

一年 飯澤 陽咲 いいざわ ひさき
一年 鈴木 彩希 すずき あやの
一年 関野 友春 せきの ともはる

山形県立山辺高等学校

一年 安彦 幸美 あびこ ゆきみ
一年 井上 愛結 いのうえ あゆ
一年 加藤 心華 かとう みか
二年 菅原 朋絵 すがはら ともえ
二年 悪七 陽菜 あくしち ひな
二年 齋藤 亜美 さいとう あみ
二年 寒河江 世莉 さがえ せり
三年 齋藤 涼音 さいとう すずね
三年 鈴木 亜衣 すずき あい
三年 鈴木 美桜 すずき みお

山形県立東桜学館高等学校

二年 石川 結歌 いしかわ ゆいか
二年 今田 蒼人 こんた あおと
二年 半田 優花 はんた ゆうか

山形県立新庄神室産業高等学校

三年 矢口 瑠波 やぐち るな

山形県立酒田光陵高等学校

一年 佐藤 晴紀 さとう はるき
一年 渋谷 柚姫 しぶや ゆずき
一年 須藤 陽湊 すとう ひより

山形市立商業高等学校

一年 山口 遼大 やまぐち りょうた

風においトンボ飛び立ち木犀花羽で広げる黄花の薫り
誰かしら先に教室ついていて「おそいよ！」と笑うあの顔好きだ
汗流し逃げ入る先は夏日影まだまだ遠いみながいる場所
放課後に友とハートを交換しツムツムツム高三の秋
帰り道聞こえなくなった蝉時雨LINEの通知「ごめんね」の文字

山形市立商業高等学校
三年 尾関 大和
三年 柏倉 萌杏
三年 鈴木 友里愛
三年 多田 柚希乃
三年 松田 陽和

東京学館新潟高等学校

おぜき ひろかず
かしわぐら ももあ
すずき ゆりあ
ただ ゆきの
まつだ ひより

マネージャー18合の米を握る甲子園の夢いっしょに見てる
かじかんだ指の感触もどるのはフリースローを十本する頃
四十度発熱した日は甘えよう素直に母の子供になって
車庫からの作った雪の滑り台父さんあの日に一緒に帰ろう
父母の思い出の曲「糸」を聴く兄の挙式の最後の場面
厳冬の雪国静かな吐息さえ小さな明かりにたとえたくなる
頭では分かっているのに言葉では伝えきれない三十一音
曾祖父と笹山神社に行く時は歩幅合わせる雪ある歩道
一年で色あせして行く父さんの作業着紺碧職人の色

十二月道場の床の冷たさが今年も剣士の心を試す

いつの間につぶれたお握り整形し涙と食べるバスケ部の午後

4階の病室から見ると初雪は暗い気持ち修正する白

浮いてしまう僕の発言噛み合わない死海のような物理の授業

現代のサンタは猫のトラックで我家のチャイム2回鳴らした

ゆるやかなパラレル二本の曲線がグレンデにある私の軌跡

ごめんねと言えずに終わった一年間僕は案外弱いみたいだ

自販機がオレンジ色に変わったら雪降る季節がもうそこにある

兄刻む具材は不揃いだけれども母の空白埋めた味噌汁

五人して家族の形を意識する大晦日の夜父饒舌

農作業軽トラ祖父の助手席で大雪予報のAMを聴く

合格の知らせを祖父は喜んで会う人会う人言いふらしてる

的を射る静寂の中息詰まる弦音が響く矢声が響く

冬空にひととき目立つオリオン座ひとりぼっちの私を照らす

朝起きて「雪降ってるよ」と母の声一つの窓におしくらまんじゅう

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

朝起きて「雪降ってるよ」と母の声一つの窓におしくらまんじゅう

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

終わらない午後に抱かれているような父の助手席光の匂い

千葉英和高等学校

二年 長谷部 澄香

はせべ すみか

千葉英和高等学校

一年 飯田 那奈

いいだ なな

千葉英和高等学校

一年 泉 まひろ

いずみ まひろ

千葉英和高等学校

一年 伊村 和花

いむら わか

千葉英和高等学校

一年 村野 しずく

むらの しずく

千葉英和高等学校

二年 石井 七海

いしい ななみ

千葉英和高等学校

二年 奥平

おくだいら

千葉英和高等学校

二年 マーティンそら

まーていん そら

千葉英和高等学校

二年 完倉 彪真

ししくら ひょうま

学習院女子高等科

一年 東風谷 莉世

こちや りせ

学習院女子高等科

一年 高垣 ねね

たかがき ねね

学習院女子高等科

一年 西 珠希

にし たまき

学習院女子高等科

一年 西 珠希

にし たまき

学習院女子高等科

山を越え家族の影が伸びていく冬青空を照らす夕影
絵馬に書く将来の夢抱きながら朱色の鳥居千本くぐる
友人と一段一段登ってく積み重ねてく思い出のよう
食卓を家族と囲む時に知る遠いあの地の終わらぬ戦い
千体の仏に囲まれ矢を放つ自分の願いの胸に抱き
ペンダコもまとめて愛しくなってくる冬の街路樹握る君の手

試合後に私にだけ見せたのは誰にも負けないひまわり笑顔

曇る窓ガタンゴトンとゆれる君ふたえきぶん二駅分の短い恋よ

鉛筆の音に紛れて聞こえてくる未来の扉開く鍵音

月冴ゆる輪島の店の破れガラスマネキンだけが中で春待つ

雪の中真つ赤なマフラー目にしみて思わず君の横顔を撮る

船室の窓より望む海原に浮かぶ初日に家族を想う

白き息空へ溶けゆく朝の道音なき冬に鳥の影あり

一年 森 紗也佳 もり さやか

二年 関根 光咲 せきね ありさ

二年 高橋 彩加 たかはし さやか

二年 沼上 喜久 ぬまかみ きく

二年 原田 絵理 はらだ えり

二年 町田 珠理 まちだ じゅり

愛知県立犬山高等学校

一年 川戸 彩煌 かわと あこ

三重県立白子高等学校

一年 山田 玲輝 やまだ れいあ

大谷高等学校

三年 山本 莉空 やまもと りく

徳島県立脇町高等学校

一年 坂本 梓 さかもと あずさ

徳島県立池田高等学校（定時制課程）

三年 西川 未紗 にしかわ みさ

弓削商船高等専門学校

二年 阿久津 滉祐 あくつ こうすけ

二年 榊原 要 さかきはら かなめ